

海外留学の経験を道内の高校生たちへ ～ Hokkaido Study Abroad Program～



R1.10月に道教育委員会主催の「Hokkaido Study Abroad Program」（道立高等学校の生徒の北海道大学への派遣・交流事業）が開催され、みらチャレ第2期生の立岩丈武さんがオーストラリアでの体験などを発表しました。

立岩さんは、留学経験や留学を通して学んだこと、自分自身の気持ちの変化などを講演したほか、「何のために留学するのか」、「英語を話したいか、そのメリットは何か」というテーマで、グループワークも行いました。

参加した高校生からは、「留学して良かったことは何か」という質問があり、立岩さんからは、自分の視野が広がったこと、専門的知識を学べたこと、自分に自信が持てるようになったことを伝えていました。

道内のワイン造り関係者と知見を共有 ～北海道ワインアカデミーでの留学成果報告～



R2.2月に開催された道主催の「北海道ワインアカデミー」で、第2期生の今村直史さんが、ニュージーランド（NZ）での研修について報告しました。

ワインアカデミーでは、道内でワイン造りに携わる方々の、栽培・醸造技術やマーケティングノウハウのレベルアップを目的として講義を実施しています。

今回は約80名の出席者を前に、研修中の各月のブドウの生育状況、作業内容や、作業の中で気づいた栽培技術や設備の特徴等について、写真を交えたスライドを用いて説明を行い、NZと気象条件が異なる北海道でも導入できる可能性がある技術や設備等の専門的な話もすることで、出席した方々と研修で蓄積した知見を共有しました。

オリジナルデザインのマスクを製作 ～留学で学んだ成果を活かしてものづくり～



アイヌ文様を発信するため、ロンドンに留学し、大学で服飾ビジネス等を学んだ第1期生の福沢大貴さん（東京の文化服装学院にて修学中）が、北海道のためにできることを考え、マスクを製作し、R2.4月に北海道に寄贈されました。

マスクは、福沢さんのオリジナルデザインで、留学で学んだ成果を活かし、一つ一つ丁寧に縫製・梱包され、通気性のある繰り返し洗うことができる素材で作られています。

寄贈されたマスクは、福沢さんのご意向を汲んで、北海道で新型コロナウイルス対策に従事している職員などに配布し、大切に活用させていただきます。